



## あっぱれ大崎！やっぱり大崎！木彫り作品を寄贈



▲看板は役場庁舎2階の町長室前に置かれています

11月14日（月）、木彫り同好会の肥後一郎さんが町教育委員会の依頼を受けて、町制80周年記念の町文化祭のために制作した手作り看板を寄贈されました。

肥後さんは、町教育委員会が書いた『あっぱれ大崎 やっぱり大崎』の文字を丁寧に彫り上げ、約1か月かけて完成させました。

文化祭に出展する陶芸作品の制作や神舞奉納行事と並行しながらの作業は大変だったそうですが、『完成できてよかった。』と話しました。

## 後輩たちへエール！～夢は必ず叶う～

11月22日（火）、『陸上競技の聖地』創造プロデューサーとして活躍している原口幸一さんが、母校大崎中学校で全校生徒に特別講話を行いました。

原口さんは、陸上競技の長距離選手として活躍されていた経験を基に、努力の大切さや仲間の大切さなどを伝えました。

最後には「待っているはダメ。行動することが大事。努力は裏切りません。」と後輩らにメッセージを送りました。



▲経験を基に講演する原口幸一さん

## 助産師の特別授業～命の大切さ学ぶ～



▲赤ちゃんの人形を抱く児童

12月2日（金）、大崎小学校において、助産師による『いのちのきねん日』と題した講演会が行われました。

講演は、エプロンシアターや絵本を用いて行われ、命が生まれるまでの過程や成長の仕方が説明されました。赤ちゃんの人形を抱く体験では、児童らは緊張しながら抱きかかえていました。

命の大切さを学んだ児童は、「家に帰ったらお母さんに感謝の気持ちを伝えたいです。」と話しました。